

北海道骨粗鬆症研究会 News Letter

Vol.1

2022.07



新型コロナと今後の学会活動に思う



理事長 伊東 学

新型コロナ感染は2020年初頭から国内で発生し、早2年半を経過しました。国内の各地では第6波を経験し、第7波が到来するかどうか不安な日々を送られていることでしょうか。全般的に感染者数は減少し、重症患者数も少なく、地域医療のひっ迫は免れていますが、正常化まではまだまだ時間がかかりそうです。

今年になり、国内の学会は“待ってました”とばかり on-site での開催が主流となりました。数年ぶりに会って自由に議論ができ、さまざまな情報を交換できる対面式での会合は、人々の温かさや笑顔をじかに感じる事ができ、何よりも代えがたい喜びや安心を感じることができます。

私自身、2022年5月以降、アメリカとカナダでの国際学会や財団の会合に参加しました。もちろん現地に行き、対面で会う喜びはひとしおですが、その一方で今後の学会運営や情報交換については、IT技術をどう駆使しておこなっていくかの議論が真剣に行われています。私の世代はアナログ時代に生きてきたのでデジタルテクノロジーを駆使することは難しいですが、若いデジタル世代と言われる人々は、新しい情報伝達手段に習熟し、毎日の生活の中でそれらの技術を縦横無尽に駆使しています。そういった中で、アナログ世代が構築してきた情報交換手法を新しい世代が踏襲していく意味はあまりないでしょう。従来顔を突き合わせる情報交換手法へのノスタルジアに浸るのではなく、何とかして新しいデジタル手段を駆使した情報交換の手法を求めていくことはできないのかと思いを巡らせますが、やはり新しい情報交換手段を構築できるのは digital native な世代の人たちだと思います。

北海道骨粗鬆症研究会は30年を超える歴史を重ね、何度か大きな変革に直面してまいりました。まさしくこの新型コロナ感染により、本研究会も新しい形態を求めていくことが必要な局面であると感じています。会員すべてから様々な考えやニーズを拾い上げ、そのマジョリティーのニーズにこたえる手法が見つかったときに、研究会の新しい姿が見えてくるのではと思っています。今、デジタル世代の皆さんがいろいろな活動を始めておられます。それらを温かく支え、広げていくことが我々の世代の仕事とっております。

新役員体制のご紹介

- 理事長** 独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター
伊東 学
- 副理事長** 北海道大学大学院医学研究院 整形外科学教室
高畑 雅彦
- 理事** 札幌医科大学 整形外科
射場 浩介
- 旭川医科大学 産婦人科学教室
加藤 育民
- 公立千歳科学技術大学 理工学部 応用化学生物学科
木村-須田 廣美
- 札幌医科大学医学部 免疫・リウマチ内科学
高橋 裕樹
- NTT 東日本札幌病院 糖尿病内分泌内科
永井 聡
- 北海道大学大学院歯学研究院 硬組織発生生物学教室
長谷川 智香
- 旭川医療センター 消化器内科
平野 史倫

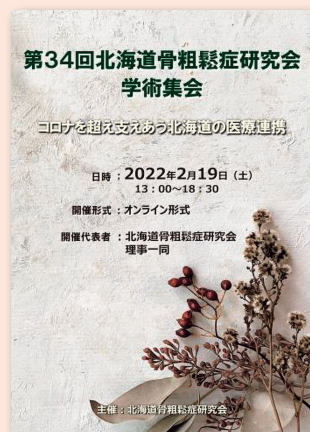
- 新評議員** KKR 札幌医療センター 整形外科
浅野 毅
- 北海道大学医学研究院 免疫・代謝内科学教室
加藤 将
- 札幌医科大学医学部 免疫・リウマチ内科学
神田 真聡
- 北海道大学大学院医学研究院 整形外科学教室
清水 智弘
- JR 札幌病院 整形外科
館田 健児
- 北海道立江差病院 整形外科
花香 恵
- 北海道大学医学研究院 免疫・代謝内科学教室
藤枝 雄一郎
- 北海道大学大学院歯学研究院 歯周・歯内療法学教室
宮治 裕史
- 北海道大学大学院工学研究院 機械・宇宙航空工学部門
山田 悟志

第34回学術集会のご報告

去る2022年2月19日に、第34回北海道骨粗鬆症研究会学術集会を開催いたしました。第34回学術集会は3年ぶりの対面開催を検討しておりましたが、新型コロナウイルス・オミクロン株の流行とまん延防止等重点措置の発令により、第33回学術集会に続くオンラインでの開催を余儀なくされました。しかしながら、伊東理事長をはじめ、理事・評議員の先生方、会員の先生方、事務局の皆様、関係者の皆様の暖かなご支援のもと、盛会のうちに開催されましたことを厚くお礼申し上げます。

この度の学術集会は「コロナを超え支え合う北海道の医療連携」をテーマに、信州大学 中村幸男先生の特別教育講演をはじめ、ミニレクチャー3演題、一般演題16演題と、骨粗鬆症の病態から薬物療法、リハビリ、また、基礎研究など多様な内容の研究発表と活発な討議がなされ、非常に濃密、かつ、今後の更なる発展が想像される充実した学術集会となりました。この度の研究会が、少しでも皆様の今後の研究や臨床のお役に立てましたなら、幸いです。

改めまして、ご参加いただいた皆様、学術集会の運営にご支援をいただきました皆様に心よりお礼申し上げます。



各賞受賞者

優秀論文賞 (Best Paper Award)

石津 帆高先生

(北海道大学病院 整形外科)

「脆弱性骨折をきたした関節リウマチ患者の再骨折リスク」

小林 英之先生

(北海道大学大学院医学研究科 整形外科)

「DAP12 関連免疫受容体による生理的骨吸収制御機構の解明-FcRγ/DAP12 関連免疫受容体ダブルノックアウトマウスを用いた解析」

清水 睦也先生

(刀圭会 帯広協立病院 整形外科)

「骨粗鬆症性椎体骨折がX線・脊椎可動域・歩行姿勢に及ぼす影響について」

トラベリングアワード

大巻 真幸先生

(北海道大学 歯学部4年・歯学研究院 硬組織発生生物学教室)

「X染色体優性低リン血症性くる病・骨軟化症モデルマウスの軟骨内骨化異常に関する組織化学的検索」

藤田 諒先生

(北海道大学大学院医学研究院 専門医学系部門 機能再生医学分野 整形外科学教室)

「週2回自己注射型テリパラチド製剤の治療継続率に影響を与える因子」

受賞者の先生方、おめでとうございます!!

第35回学術集会のご案内

第35回北海道骨粗鬆症研究会学術集会を、下記要領にて開催いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】 2023年1月28日(土)

【会長】 高橋 裕樹

(札幌医科大学医学部 免疫・リウマチ内科学)

【会場】 TKP 札幌カンファレンスセンター

(札幌市中央区北3条西3丁目1-6)

会員募集

本研究会は、道内で骨粗鬆症治療に携わる整形外科、婦人科、内科、歯科などの臨床医のみならず、骨の研究に携わる基礎研究者が集う学際的な研究会として設立され、活発な研究活動を継続しております。入会をご希望の方は、研究会HPに掲載の入会申込書に必要事項を記入の上、事務局までお送りください。

研究会HP: <https://hokkaido-hone.com/>



News Letterの発行に際して

本研究会では、これまで北海道骨粗鬆症研究会雑誌 Osteoporosis Hokkaido を刊行しておりましたが、新たな広報活動の一環として、News Letter を発行させていただき運びとなりました。会員の皆様や時代のニーズによりお応えできるよう、魅力的な研究会運営を目指して、鋭意努力してまいります。これまでの皆様のご支援に深謝申し上げますとともに、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

発行/北海道骨粗鬆症研究会広報委員会

事務局/札幌市白石区菊水9条3丁目1-17

(株)コンベンションワークス内

「北海道骨粗鬆症研究会事務局」

E-mail: info@hokkaido-hone.com

TEL: 011-827-7745

FAX: 011-827-7769